

Two Approaches to the Parasitic Gap Construction in English

黒木, 隆善

<https://hdl.handle.net/2324/1440985>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

論文審査結果の要旨

本論文は、移動による空所に加えて、移動したものと同一の解釈を持つもう1つの空所(寄生空所)を伴う英語の寄生空所構文(PG構文)の統語的派生と認可に関する実証的研究である。寄生空所構文は寄生空所が生じる位置が、主語内であるか(SPG構文)、付加詞句内であるか(APG構文)によって2種類に分類される。従来の寄生空所構文研究では、この2つのPG構文を同一の現象として統一的分析が提案されてきた。本論文は、PG構文の特徴と先行研究を綿密に調べ、その結果、統一的分析では捉えられないそれぞれ異なる特徴があることを実証した。そして、近年の生成文法理論におけるミニマリスト統語論の枠組みの下で、それぞれのPG構文の派生と認可のメカニズムに対し、従来の分析の不備を補う独自の提案を行い、2つのPG構文が異なる文法現象であることを立証している。さらに、先行分析を破棄することに伴う問題を新たな視点で捉え直し、自らの提案を補強し、さらなる分析の可能性を示した。

本論文の第1章では、PG構文の典型的事例と一般的特徴を簡潔に紹介し、更にPGが主語内に生起するか、付加詞句内に生起するかによって、PG構文が2種類に分類されることを示した。第2章では、1章で示した2種類のPG構文の共通点と相違点を先行研究ならびに新たに事実を検証することにより明らかにした。第3章では、2種類のPG構文を統一的に分析している先行研究を概観した。PG構文の統一的な分析方法は2タイプに大別される；①PGは空演算子の移動によって生じると想定する分析方法と、②PGはPG位置から直接移動を行うことにより生じると想定する分析方法である。ここでは、①と②の代表的な複数の研究をそれぞれ綿密に検証し、これらの統一的分析が前章で取り上げた2種類のPG構文における相違点を適切に捉えることが困難であることを明らかにした。第4章では、前章での先行研究を踏まえ、近年のミニマリスト統語論の枠組みの下で、2種類のPG構文には、PGを認可するためのメカニズムがそれぞれの構文に対して必要であることを提案した。そこで、近年の併合の概念、ならびにフェイズからの素性継承のシステム、さらに、素性継承のシステムに基づく素性分離システムといったフェイズ理論の妥当性を説明し、素性分離の際に指示性に関する素性もその適用を受け、移動要素の指示性が減じるとする新たな提案を行った。そして、これらの分析を基盤として、APG構文ではNissenbaum(1998, 2000)の意味合成分析に基づき、SPG構文においてはNunes(2001, 2004)の側方移動(sideward movement)分析をフェイズ理論に基づき修正したメカニズムを提案した。特にSPG構文においては、主語DPの指定部位置への移動を想定し、側方移動が生じることにより、結果的に顕在的な移動要素が素性分離システムの適用を2度受けることの重要性を指摘した。第5章では、前章での提案したメカニズムが適切に第2章での相違点を説明可能であるということを論じた。第6章では、一見特殊な移動に見える側方移動が、Chomsky(2007, 2008)の提案とChomsky(2013)の統語対象物のラベルに関するアルゴリズムの観点から理論的に正当化されるということを主張した。また、側方移動を近年のミニマリスト統語論の枠組みに適用する際に問題となってくる主語からの要素の抜き取りを禁じる(主語の島)条件に関しても、前述のアルゴリズムを援用することによって説明可能となることを論じた。最後に、修正した側方移動分析の妥当性を補強する経験的な証拠として、与格構文に埋め込まれたPG構文の事例が説明可能となることを論じた。第7章で論をまとめた。

本論文の特に優れた点は、従来の常識を実証的に打破したことと、フェイズ理論に基づき、統語操作として不可欠な併合とラベルアルゴリズムにより、側方移動の文法操作としての妥当性を確立したことにある。本論文は、寄生空所構文に関する実証的研究であるが、本研究の成果は、フェイズ理論の妥当性を検証するのみならず、統語派生のメカニズムならびに、統語派生と意味解釈の相関に関する重要な基礎的研究として、生成文法における理論研究において大きな貢献をするものと高く評価することができる。

以上のことから、本調査委員会は、本論文の提出者が博士(文学)の学位を授与されるに相応しいと認めるものである。